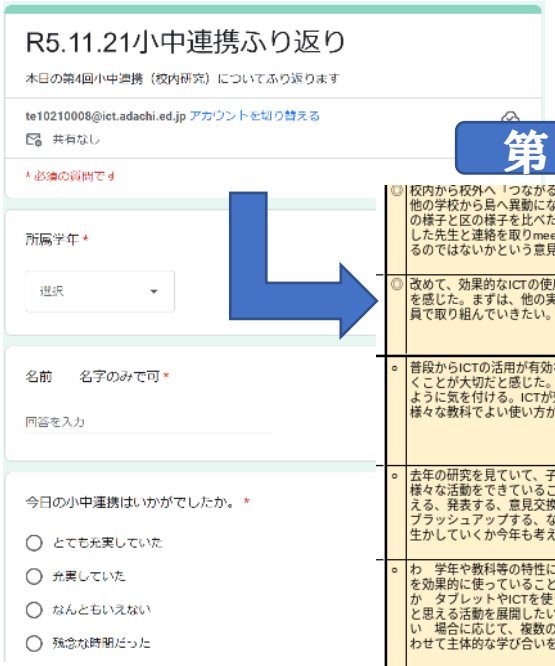
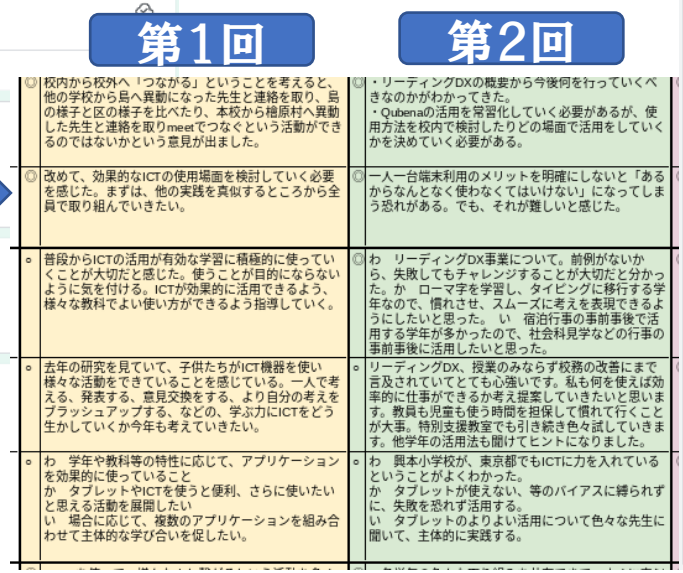
リーディングDXスクール事業 【実践事例】

興本扇学園　足立区立扇中学校

【取組内容】 ④Google Meetを利用した会議や、Jam Boardを利用した研修の意見交換を行っている。

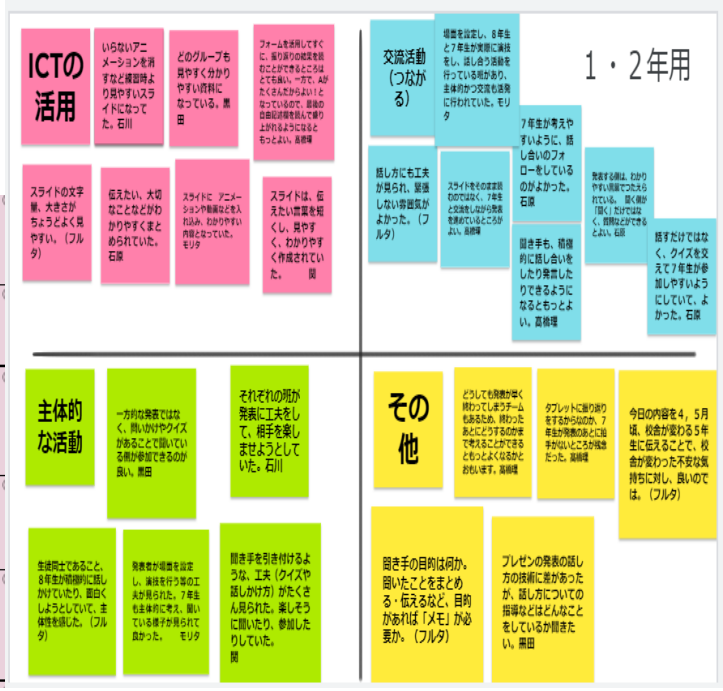




第１回

◎ 校内から校外へ「つながる」ということを考えると、他の学校から島へ異動になった先生と連絡を取り、島の様子と区の様子を比べたり、本校から檜原村へ異動した先生と連絡を取りmeetでつなぐという活動ができるのではないかという意見が出ました。	◎ ・リーディングDXの概要から今後何を行っていくべきなのかがわかってきた。 ・Qubenaの活用を常習化していく必要があるが、使用方法を校内で検討したりどの場面で活用をしていくかを決めていく必要がある。
◎ 改めて、効果的なICTの使用場面を検討していく必要を感じた。まずは、他の実践を真似するところから全員で取り組んでいきたい。	◎ 一人一台端末利用のメリットを明確にしないと「あるからなんとなく使わなくてはいけない」になってしまう恐れがある。でも、それが難しいと感じた。
○ 普段からICTの活用が有効な学習に積極的に使っていくことが大切だと感じた。使うことが目的にならないように気を付ける。ICTが効果的に活用できるよう、様々な教科でよい使い方ができるよう指導していく。	◎ わ　リーディングDX事業について。前例がないから、失敗してもチャレンジすることが大切だと分かった。か　ローマ字を学習し、タイピングに移行する学年なので、慣れさせ、スムーズに考えを表現できるようにしたいと思った。 い　宿泊行事の事前事後で活用する学年が多かったので、社会科見学などの行事の事前事後に活用したいと思った。
○ 去年の研究を見ていて、子供たちがICT機器を使い様々な活動をできていることを感じている。一人で考える、発表する、意見交換をする、より自分の考えをブラッシュアップする、などの、学ぶ力にICTをどう生かしていくか今年も考えていきたい。	○ リーディングDX、授業のみならず校務の改善にまで言及されていてとても心強いです。私も何を使えば効率的に仕事ができるか考え提案していきたいと思います。教員も児童も使う時間を担保して慣れて行くことが大事。特別支援教室でも引き続き色々試していきます。他学年の活用法も聞けてヒントになりました。
○ わ　学年や教科等の特性に応じて、アプリケーションを効果的に使っていること か　タブレットやICTを使うと便利、さらに使いたいと思える活動を展開したい い　場合に応じて、複数のアプリケーションを組み合わせて主体的な学び合いを促したい。	○ わ　興本小学校が、東京都でもICTに力を入れているということがよくわかった。 か　タブレットが使えない、等のバイアスに縛られずに、失敗を恐れず活用する。 い　タブレットのよりよい活用について色々な先生に聞いて、主体的に実践する。

第２回



本校は小中一貫教育校であるが、小学校１～４年生の校舎と、５～９年生の校舎が離れている。そのため会議の際にはGoogle Meetを活用し、資料を共有して閲覧しながらオンラインで会議を行うことで、校務の効率化や対話的、協働的な会議となるようにしている。

また、校内研修ではGoogle Formsを活用した振り返りや、Jamboardを活用した意見の共有などを行い、その場でフィードバックを行い、次の研修につなげている。リアルタイムでの同時編集に対応しているため、研修中に参加者それぞれが自由に書き込み、全体で共有し、全員が主体的に参加することができている。